

---

# XBRLを使って、 財務分析(2015)

---

専修大学商学部 高萩栄一郎

---

# XBRLとは

---

- eXtensible Business Reporting Language
  - XMLの一種
  - 企業の財務情報の公開に使われている。
  - 日本： 東証、金融庁
  - おしえてXBRL（動画） 日本公認会計士協会  
[https://www.xbrl.or.jp/modules/pico1/index.php?content\\_id=7](https://www.xbrl.or.jp/modules/pico1/index.php?content_id=7)
-

# XMLとは

---

- Extensible Markup Language
  - さまざまなマークアップ言語を作成できる。  
(XBRLは、XMLの一種)
  - `<aaa> ... </aaa>`
  - `<aaa>` 開始タグ
  - `</aaa>` 終了タグ
  - この間が `<aaa>` という指定
  - 開始タグには、属性がつくことがある。
  - `<aaa bbb="ccc" ddd="eee"> ... </aaa>`
  - `bbb`は属性名、`ccc`は、属性値
  - XBRLもこの形式で記述されている。
-

# 値（ファクト）の記述例

---

```
<jppfs_cor:CashAndDeposits id="fact1"  
contextRef="Prior1YearInstant" unitRef="JPY"  
decimals="-6">  
123456000000
```

```
</jppfs_cor:CashAndDeposits>
```

- `jppfs_cor:`プレフィックス  
`CashAndDeposits` 現金及び預金
  - `contextRef="Prior1YearInstant"` 前年度の値
  - `unitRef="JPY"` 日本円表示
  - `decimals="-6"` 百万円単位
  - `123656000000` 値
  - したがって、この会社の前年度の現金及び預金額は、  
`123,456,000,000` であることを示している。
-

# 値の探し方

---

該当する決算期のXBRLファイルで、

(1) 勘定科目名

(2) いつの期か（当該期， 前期など）

(3) 連結の値か非連結の値か？

(1)～(3)を指定→値を1つ得ることができる。

次のスライドのExcelのマクロで、(1)～(3)を指定して値（ファクト）を取得する関数を利用

---

# 関数 XBRL\_accread

---

- 引数1 : XBRLのファイル名(.xbrlは付けない)
- 引数2 : 要素名 (勘定科目名) 一覧のファイルから探し, 要素名の値を指定する (要素名の前に, プレフィックス「jppfs\_cor:」を付ける) .
- 引数3 : 属性 contextRef の 属性値

CurrentYear : 連結 該当年度

Prior1Year : 連結 前年度

CurrentYear\_NonConsolidatedMember : 非連結該当年度

Prior1Year\_NonConsolidatedMember : 非連結前年度

Duration 損益計算書, キャッシュフロー計算書の科目に多い

Instance 貸借対照表の科目に多い

引数3は次のどれかを指定

CurrentYearInstant, Prior1YearInstant, CurrentYearInstant\_NonConsolidatedMember,  
Prior1YearInstant\_NonConsolidatedMember, CurrentYearDuration, Prior1YearDuration,  
CurrentYearDuration\_NonConsolidatedMember, Prior1YearDuration\_NonConsolidatedMember

- 引数4: エラー表示の有無 (TRUE : 表示なし, FALSE:表示あり)
-

# 使ってみよう（ファイルの取得）

---

- XBRL用のフォルダを作成
  - <http://www.isc.senshu-u.ac.jp/~thc0456/XBRL/>から、[XBRL\\_sample.xlsm](#) をXBRL用のフォルダにダウンロード
  - [EDINT](#) から 分析したい企業のXBRLファイルをダウンロードし、XBRL用のフォルダに保存
  - 解凍し、下位のフォルダにある `***.xbri` ファイルをXBRL用のフォルダに保存(適当に名前を変更すると便利)
  - [動画:XBRLファイルのダウンロード](#)
-

# XBRLデータの取得

---

- EDINET  
<http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/>  
にアクセス
  - 「書類検索」をクリック
  - 「提出者／発行者／ファンド」に、会社名を入力し、  
[検索]
  - 対象の会社を探し、[XBRL]のアイコンをクリックして  
ダウンロード
  - zipファイルを解凍する.
  - publicDOC 中の .xbrl ファイルを利用する.
  - Excelのファイルと同じフォルダに、「abc2015.xbrl」  
のように、わかりやすい名前に変更する(abcは会社名).
-

# 分析1

---

1. XBRL\_sample.xlsxmを起動. 利用するには, コンテンツを有効にし, 信頼済みにする.
  2. D2 に, ファイル名(拡張子を除く) を入力する.
  3. D3 に, 「jppfs\_cor:」を設定する.
  4. D4 は, いつの値を表示するのかが選択する. ここでは, 「CurrentYear」を選択 (「CurrentYear」と「Prior1Year」以外は存在しないことが多い).
  5. D5 は, 連結か否かを設定する (連結の場合, 空白).
  6. ここまで, D7~D10の値が表示される.
  7. A13 に, 「NetSales」を設定し (シート「勘定科目」からコピーするとよい), C13に「売上高」を記入
  8. D13 に, 値が表示される (XBRL\_accreadの計算式が設定されている).
  9. 同様に, 14行目, 15行目を設定すると, その値がD列に表示される.
  10. D2:D15 の計算式をE2:E15にコピーし, E4を「Prior1Year」に設定すると, 前期の値が表示される.
  11. [動画:Excelの起動と値の読み込み](#)
-

# 練習1

---

- 比較したい会社（上場企業，2社以上）を決め，そのxbrlファイルをダウンロードし，XBRL用のフォルダに置く。
-

## 分析2

---

1. D17に. 売上高経常利益率を計算する。  
(=D14/D13)
  2. D列の計算式を F列とG列に, コピーし, ファイル名のセル (2行目) を 練習1で設定したxbrlのファイル名にする. 値や売上高経常利益率が自動で計算される.
  3. 動画:計算式の設定, 他社との比較
  4. 完成例など : [http://www.isc.senshu-u.ac.jp/~thc0456/XBRL/usage\\_XBRL.html](http://www.isc.senshu-u.ac.jp/~thc0456/XBRL/usage_XBRL.html)
-

# 練習

---

- 他の会社のXbrlをEdinetから取得しよう
  - 適当な名前に.xbrlファイルを名前変更して、Excelと同じフォルダに置こう
  - ファイル名などを設定し、さまざまな指標を計算式の複写で求めよう。
  - 財務分析指標  
<http://fsreading.net/analysis/205.shtml>
  - 基本的に該当年度の値でよい
-